

対象年度		令和 2年度		総合計画実施計画策定及び行政評価シート									
事務事業名		救急医療・市民の集い事業						予算事業名		救急の日・市民のつどい事業費			
予 算 科 目		会計	01	款	項	目	事業	要求区分	根拠法令				
				04	01	02	2101	経常経費					
総合計画体系		1ともに支えあい，安心して暮らせる社会福祉の充実(保健・福祉)						事業の区分		主要事業			
		1-1健康で安心して暮らせる保健福祉の充実（健康・医療）											
		③地域医療体制の充実						担当課係等		健康増進センター			
		1救急医療体制の整備								管理係			
事業期間		継続（平成15年度～ 年度）											
【めざす姿（意図・どのような状態になるのか）】							【事業開始のきっかけや他市の状況など】						
市民が，救急医療及び救急搬送について正しく理解し，救急に関する意識の高揚を図る。							1982年に厚生省が，救急業務や救急医療について市民の理解と認識を深め，救急医療関係者の士気を高める日として「救急の日」を制定した。国では，厚生労働省，消防庁，日本救急医学会，財団法人日本救急医療財団の共催により，救急の日イベントを実施している。						
【手段（事業内容・どのようなことを行うのか）】							【対象（だれに対して・何に対して行うのか）】						
救急の日（9月9日）前後に，救急医療並びに救急蘇生法について学ぶ「救急の日・市民の集いイベント」を開催する。 【イベント内容】 第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技							市民						
							【事業をとりまく環境の変化】 東日本大震災の影響もあり，平成23年度からの参加者は，200人～250人の市民が参加しておりニーズは高い。 平成27年度は，関東・東北豪雨により，イベントは中止となった。また，市内AEDの設置事業所等は，年々増加していることから，本イベント開催の意義は大きい。						
【令和 2年度 事業内容】				【令和 3年度 事業内容】				【令和 4年度 事業内容】					
【救急の日・市民の集いイベント】 第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技				【救急の日・市民の集いイベント】 第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技				【救急の日・市民の集いイベント】 第1部 医師による救急医療の講演 第2部 救急蘇生法（AED取扱い含）の実技					

■事業費

		H30年度		R01年度				
財 源 内 訳	国	庫	支	出	金	0	0	
	県		支	出	金	0	0	
	地		方		債	0	0	
	そ		の		他	0	0	
	一		般	財	源	141	155	
歳入計（千円）		141		155				
歳 出 内 訳	節（番号＋名称）		金額（千円）		金額（千円）			
	11	需用費	89		95			
	12	役務費	8		10			
	14	使用料及び賃借料	44		50			
歳出計（千円）（A）		141		155				
伸び率（％）				9.92				
備考	総合計画51ページ 予算書98ページ							

平成30年度行政評価シート

■指標

種類	指 標 名	単 位		H30年度	R01年度	R02年度
活動 指標	救急の日イベント回数	回	目標	1.00	1.00	1.00
			実績	1.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00
成果 指標	救急の日イベント参加人数	人	目標	260.00	260.00	300.00
			実績	197.00	0.00	0.00
			目標	0.00	0.00	0.00
			実績	0.00	0.00	0.00

■事業評価

必要性	事業の必要性	A 必要性は高い	初期救急についての理解や、防災意識を広く市民に普及させるために必要である。
妥当性	実施主体の妥当性	A 妥当である	市医師会、消防署、市が連携し共催で行っている。
	手段の妥当性	A 妥当である	イベント開催による市民への周知は妥当である。
効率性	コストの効率性・人員効率	A 改善の余地はない	経費、人員ともに、市医師会、消防署、行政と分担している。
公平性	受益者の偏り	B どちらとも言えない	イベント案内の通知は、AED設置事業所に送付しているため、一般参加者が少ない。
有効性	成果向上の余地	A 上がっている	イベント参加者は、毎年200人前後で、心肺蘇生法の理解や防災意識は高まっている。
進捗度	事業の進捗	A 順調である	「救急の日 市民の集い」は、初期救急の知識（心肺蘇生法やAED使用方法）を確認する場として定着しており順調である。
総合評価 上記評価を踏まえて事業全体について評価し、問題点・課題等を指摘してください			
「救急の日 市民の集い」は、9月9日を挟む休日に設定しているが、イベント当日が他の行事と重なることが多い。従って、参加しなくても参加できない市民がいる。また、一般参加者が少ないため、広報活動を工夫し、参加者数の増加に努める。			
対応策提言等 この事業を今後どのように改善・改革をしていきますか			
当該イベントを市医師会、消防署、市の共催で実施することは大切なことである。当該イベントは、市民に定着しており目的も達成していることから事業を継続することが望ましい。			

■方向性

1次評価（1次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☒ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
改革・改善の具体的内容（改革案・実行計画） 結城市医師会、結城消防署及び関係部署と連携し、救急医療や救急搬送に関する知識等の普及・啓発を図る。
2次評価（2次評価者として判断した今後の事務事業の方向性（改革・改善策）） ☐ 拡充（人・モノ・カネ等の拡充） ☐ 改善改革しながら継続 ☐ 現状のまま継続（改善・改革なし） ☐ 統合・新規事業への展開 ☐ 縮小 ☐ 休止 ☐ 廃止・終了
企画調整会議の意見・考え方（1次評価者と同じ場合も記入） 上記評価のとおり。